クラス番号	626	担当教員名	鈴木　岸子
テーマ	ケアマネジメントにおける保健医療福祉の多職種連携		
著書･論文 研究課題等	・「要介護者の介護付き旅行の文献レビュー―先行文献に見る意義と課題―」『日福社会福祉研究』4pp85-92(2009)単著・「日本の家族介護者がもつ「介護しなければならない」意識に関する一考察」『椙山女学看護学研究』3pp69 - 77(2011)共著・「スーパーマーケットにおける健康支援サービスの効果」『日本看護医療学』13 (1) pp79-89(2011)共著・「Physical and psychological health problems among Japanese family caregivers」共著 Nagoya Journal of Medical Science ;73(3-4)pp107-115(2011)・「利用者の意欲を高める「介護付き旅行」のすすめ（前編)」中央法規月刊ケアマネジャー3pp70-73(2010)・「利用者の意欲を高める「介護付き旅行」のすすめ（後編)」中央法規月刊ケアマネジャー4pp72-75(2010)・「ケアマネジメントの実務－Q＆Aと事例集－」新日本法規出版 pp10-83, pp159-207(2011) 研究課題：「女性家族介護者の筋骨格系症状の予防」		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：ケアマネジメント、保健医療福祉、多職種連携・協働、要介護者、家族支援

目的、内容、方法等：

本ゼミの目的は、社会福祉士として、多職種と連携協働して対象者の尊厳を守ることのできる専門職になる為に、保健医療福祉の領域における多職種連携・協働について学ぶことです。保健医療福祉の現場において盛んに「多職種連携」という言葉が聞かれます。また、その必要性が語られていますが、現実問題としてなかなか連携が進んでいません。その理由の 1 つは、現場において、互いの専門職が持つ独自の視点や役割を理解し、相互に尊重できる関係性が育ちにくい（育っていない）ことが考えられます。そこで、本ゼミでは、私の保健師としての経験と、H12 年 4 月から介護支援専門員として、在宅の要介護高齢者のケアマネジメントに従事した経験と現状を踏まえて、多職種連携・協働の意義について学びをします。

ゼミの運営は、基本的には、学生が主体となって行います。ゼミ生のグループワークを通して連携協働を体験して欲しいと思います。内容については、皆さんと打ち合わせして決めたいと考えていますが、2 年間の専門演習の目標は以下の通りです。

授業計画：

3 年次前期：目標

①上記テーマに基づいた学習およびディスカッションを行い、連携・協働の意義を考える。

②適切な書籍や論文を用いて、輪読、論文クリティークを行い卒業論文作成に必要な技術を習得する。

3 年次後期：目標

①在宅サービスの見学を通して、多職種連携・協働について理解を深める。

②12 月ごろを目途に、卒業論文の中間レポートが提出できる。

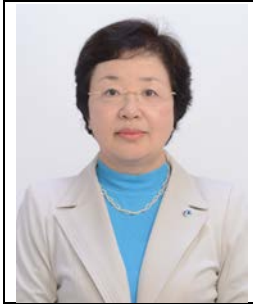
4 年次

最終学年での目標は、卒業論文の執筆と社会福祉士国家試験に向けた準備とします。(本ゼミでは、出来るだけ卒業論文の提出を夏までとし、以後は社会福祉士の国家試験対策に集中する形を取りたいと考えています。)

2 年もあると思っていても、実際はあっという間に過ぎてしまいます。しっかりと意識を持ち、積極的にゼミ活動に取り組まないと、卒業論文提出も、国試対策も間に合いません。意欲があり、他のゼミ生とコミュニケーションを取って、グループワークに取り組める学生を待っています。是非一緒に学びあいましょう。

使用テキスト：安藤喜久雄「わかりやすい論文レポートの書き方」実業之日本社

担当教員からのメッセージ



じっくり考えたり、様々なことを幅広く学んだり、仲間と一緒に 1 つのことに取り組んだり出来るのは、学生のうちです。大いに見聞を深めて充実したゼミ活動を行いましょう。

また、ゼミの仲間は、卒業後も何かと頼りになる良き仲間です。お互いに充実したゼミ生活が送れるように、仲間とは積極的に関わりを持ちましょう。そのためにも、自分達でコンパや合宿、施設見学など企画してください。